

ペット高齢化時代



ペット 高齢化時代が やってきた



ペットの寿命が延びた今、
飼い主はペットの高齢期の体調の変化や衰えに
備えておく必要があります。



犬や猫は何歳から高齢期？

犬や猫の高齢期に統一された
定義はありませんが、
一般に犬は…
大型犬では6～7歳ぐらいから、
中型犬では7～8歳ぐらいから、
小型犬では8～9歳ぐらいから
と考えられ、老化の兆候が見ら
れるようになります。
また猫は…
体重に関わらず9～10歳ぐら
いと考えられています。

犬	大型犬 (体重25kg以上)	6～7歳 ぐらい
	中型犬 (体重10kg以上 25kg未満)	7～8歳 ぐらい
	小型犬 (体重10kg未満)	8～9歳 ぐらい
猫	体重に関わらず	9～10歳 ぐらい

宣言
明るい笑顔
すぐ返事
伝える元気

げんき君 ホームページ

健康に関する情報がいっぱい

<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ

2007 9月号



伸びるペットの寿命

なぜペットたちが長生きするようになったのでしょうか？
犬猫ともにワクチン接種率が高まり感染症の予防につながったこと・ペットに適した食事の定着・室内飼育の普及・動物用の薬や医療の進歩・そして家族の一員としてのたっぶりの愛情と行き届いたケアを受けられるようになったことが、長寿の理由と言えるでしょう。



高齢期にみられる病気

「老化」という変化は避けられない現象ですが、老化と病気をそれぞれ見分け、対処しなければなりません。病気の場合は予防も含め早めに処置し、進行を抑制する対応が必要です。



飼い主がペットの体調の変化を
しっかり見きわめることが大事です！

長年一緒に暮らしてきたペットに、老後もおだやかに
過ごさせてあげたい

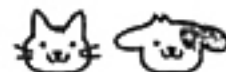
飼い主は、動物病院で定期的に健康診断を受けること、
また病気を知って早めに発見するように努めることが
大切です。



病気のサインを見逃すな! ✨+

ししゅうびょう

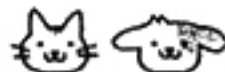
●歯周病



口臭・よだれ・歯茎の腫れ・痛みによる食欲不振など。
食事を食べにくそうにしているなど。

にゅうせんしゅよう

●乳腺腫瘍



乳腺にできるシコリ。
高齢のメス犬に非常に多い。
痛みがあまりなく発見しづらいが乳首の周りのシコリがサイン。
ブラッシング、スキンシップの時にこまめに触って早期発見を。

ほねかんせつしつかん

●骨関節疾患・



脊椎疾患

関節の炎症や背骨の変形など。
足を引きずるように歩いたり、階段を嫌がったり、足や背中に触れると痛がったりする。

ちほう

●痴呆



昼夜逆転、夜鳴き、不適切な排泄、徘徊、いくら食べてもやせる、飼い主の呼びかけに無反応などの症状が現れる。

まんせいじんふぜん

●慢性腎不全



高齢期の猫に最も多い疾患の一つで、腎機能が徐々に低下していく。

多飲・多尿、食欲不振、体重減少など。また疲れやすい・フラフラしている・毛づやが悪いなどの症状が見られる。

こうじょうせんきのうこうしんしょう

●甲状腺機能亢進症



甲状腺ホルモンの過剰分泌によって引き起こされる疾患。

・無気力になり、寝ていることが多い。
・毛づやが悪くなり、脱毛が多い。
・食べすぎではないのに体重が増加肥満になった。



歯周病を予防しよう

高齢化に伴う病気で、唯一、早い段階から飼い主の努力で予防できるのが**歯周病**です。

ペットも人と同じで、歯にトラブルを抱えていると、心臓病、腎臓病、肝臓病などになりやすいといわれています。



予防法

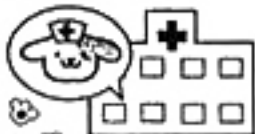
歯を磨く習慣を！

ガーゼを指に巻いて少し水にぬらし、歯の表面をこすります。大型犬の場合は、清潔な布手袋をはめて水をつけ、歯をこするようにします。週に2～3日行うとかなり予防ができます。

口や歯茎が痛いとおペットたちは顔をなでられたり、さわられたりするのを嫌がります。

ペットの口をあけてみて、歯茎が赤くなっていたり、歯石がついていたり、口臭がすれば、ほぼ歯周病にまちがいありません。

動物病院で処置してもらいましょう。



肥満を予防しましょう



人間の場合と同じように、犬の肥満も心臓病や糖尿病、皮膚病といったさまざまな病気を引き起こす要因になります。



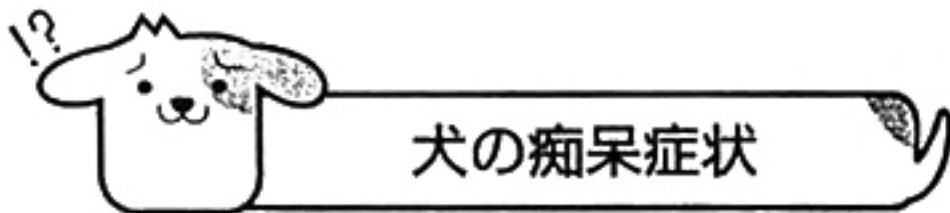
また体重が増えることで、頸椎・腰椎・股関節・ひじ・ひざなどに大きな負担がかかり、骨関節疾患や椎間板ヘルニアなどを悪化させてしまいます。

高齢期の犬や猫は、運動量も基礎代謝も減ってきます。高齢期に合った栄養バランスを考えて、高齢期用のフードを与えましょう。

高齢期の犬猫の食事の工夫



- かたいドライフードが食べにくい場合は・・・お湯でふやかすと柔らかくなり食べやすくなります。また、消化を助け、水分補給にもなります。
- 飲み込む力が弱まったり、消化吸収能力が衰えたりします。1日の分量を少しずつに分け、回数を増やして与えるなど、工夫してみましょう。



犬の痴呆症状

ペットの長寿に伴って、増えてきたのが犬の痴呆症状です。

犬の痴呆症状には、以下のような症状が現れます。

- ♡ 飼い主の言うことを理解しなくなる、聞かなくなる。
- ♡ 人の見分けがつかなくなる。
- ♡ 飼い主が帰宅すると喜んでいたので反応がなくなる。
- ♡ 単調に鳴き続ける、夜鳴きが一晩中続く。
- ♡ 狭い所に入り込んで出られなくなる。
- ♡ 食べ物の好みが変わる、食べ過ぎる。
- ♡ トイレのしつけを忘れる。
- ♡ 飼い主とのコミュニケーションができなくなる。

犬の痴呆の悩みは一人で抱え込まないで 痴呆かなと思う症状があれば早めに動物病院に相談しましょう。



動物病院には犬用おむつや徘徊防止サークル、歩行補助器具などの情報が集まっています。また症状に合わせて生活面でのアドバイスを受けることができます。

痴呆犬の介護は、飼い主にも大きな負担になります。家族や友人に協力を求めたり、時にはペットシッターを利用して気分転換するのもよいでしょう。



体力も瞬発力も衰えてきた高齢の犬や猫たちにとって、家の中は安全で快適な生活環境でしょうか？

●温度管理に注意

犬猫ともに体温調節ができなくなります。また、皮膚感覚が鈍くなるので、暖房器具に近づきすぎてやけどする例もあるそうです。

●足裏の毛やつめはきちんと処置

愛犬の足裏の毛が伸び過ぎていて、フローリングだけでなく、カーペットの上でも滑ってしまったり、伸びたつめでカーペットを引っかけて転んでしまったり、事故、ケガの要因となることも少なくありません。

●なるべく階段や段差をなくす

五感が鈍くなっているため、階段や段差も危険です。例えば犬の場合、散歩のとき段差が見えなくて階段を踏みはずすことがあります。

●一番落ち着ける場所は自宅言葉が話せないペット達。

飼い主が体調の変化を把握し、より快適に楽しく過ごせるように心がけてあげてください。

